

## 平成 21 年における静岡県内の倉庫貨物動向

平成 21 年(1～12 月)の貨物動向は、入庫高が 806 万トンと前年を 150 万トン下回った(15.7%減)。回転率は、月平均 55.0 と前年を 12 ポイント下回った。月末平均保管残高は、108.8 万トンと 7.3 万トン下回った(6.3%)

リーマンショック後の平成 20 年 9 月、10 月期、需要の下落・在庫調整・生産と消費のタイムラグ等により入庫高が急激に増加し前年同期を上回り、保管残高は、増加し続け満庫状態を呈した。

平成 20 年 11 月に入ると、入庫高は減り始め、現在まで、増加に転じることは無く、保管残高も、前年同期を上回っていたものの漸減傾向を示し、平成 21 年 4 月には、前年同期を下回るに至り、12 月には、97.8 万トンと 100 万トンの大台を切った(過去 5 年間ワースト 1)。

平成 21 年 12 月における倉庫使用状況をみると、131 万 m<sup>2</sup>で所管面積 218 万 m<sup>2</sup>の 60%、県下 6 地域の一部地域によっては、53%と大変低い使用状況となっている。(1～3 類)。倉庫業が装置産業であることから、需給調整の機能しにくいことを示してもいる。